

ダイテック 明治屋、丸善一帯を再開発

名古屋・栄の明治屋栄ビル、丸善名古屋ビルの一帯で、ソフトウエア開発のダイテックグループ(名古屋市中)が再開発に乗り出した。グループ創業者の堀誠氏(左)「写真」は本紙の取材に「広く支持を得て栄・広小路の活性化に役立つものにした」と語り、不動産業者と提携して二〇一五年以降に着手する考えを明らかにした。(今村節)



創業者・堀誠氏

■経緯

ダイテックグループは〇九年に明治屋栄ビルの土地建物を取得。さらに一二年十月、隣接する丸善名古屋ビルや七間町の土地建物など一帯の不動産を買収した。自己資金での再開発を検討しており、用地は約三千二百平方メートル。再開発計画は未定だが、地下と低層階を商業、飲食・サービス施設にし、高層階を分譲マンションにする案を軸に、同ビルは広小路通に面した一角など不動産業者と提携し、地がないと難しく、地権者が五年以降に着手する考えだ。

■白紙

多しと進まない。堀氏は「角地を所有するわれわれが再開発するべきだと、いろいろな方から説得された」と、丸善名古屋ビルを関係会社で所有していた東京建物など関係者を働きかけて一帯の取得に踏み切った経緯を語る。

不動産業者と連携、15年以降着手

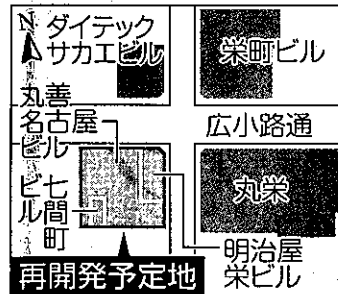
明治屋栄ビルに入居している明治屋名古屋栄ストアは、一四年五月までの賃貸借契約。「再開発後に商業部分で営業してもらえれば」と話し合いたい」と堀氏。一方、明治屋(東京)は「移転は白紙。建て替えた後の再入居は、条件が合えば検討したいが未定」と話す。

■魅力

情報処理が本業のダイテックグループが、なぜ再開発を手がけるのか。栄地区では一九九九年、資産運用を目的に旧山一証券名古屋支店ビル(現ダイテックサカエビル)を取得した経験がある。〇〇年に大型書店「マナハウス」(〇七年閉店)をオープン。〇二年に同ビル地下にジャズライブハウス「名古屋ブルーノート」を開業した。それに続く栄の不動産事業となる。堀氏は「栄地区を狙ってやってくるわけではない。本業で出た利益を生かし、街のためになりたい」と、今回の狙いも資産運用との認識を示した。「名駅と違い、栄はごちゃごちゃした感じが魅力。人が集まり、楽しい場所になりたい」と語る。

■ダイテックグループ

1969年、をはじめ、名古屋ブルーノートを運営するガソリンスタンド向け情報処理サービス「ミュージックベンチャーズ」、不動産を手がける「ダイテック」として創業。産会社「アセットマネジメント」、不動産設計などのコンピューター利用設計「井コンピュータホールディングス」などシステム(CAD)ソフトの最大手。957社。12年9月期の売上高は87億円(福年ジャスタック上場(2006年に非上井コンピュータホールディングスを除場化)。グループ企業は、持ち株会社の「ダイテックホールディング(HD)」「ダイテックHD社長を務める。



中部のSTAYS